

2019年6月10日

あおぞら投信株式会社

「景気良し 戦後最長 超えたころ

すぐその先は まだら模様か」

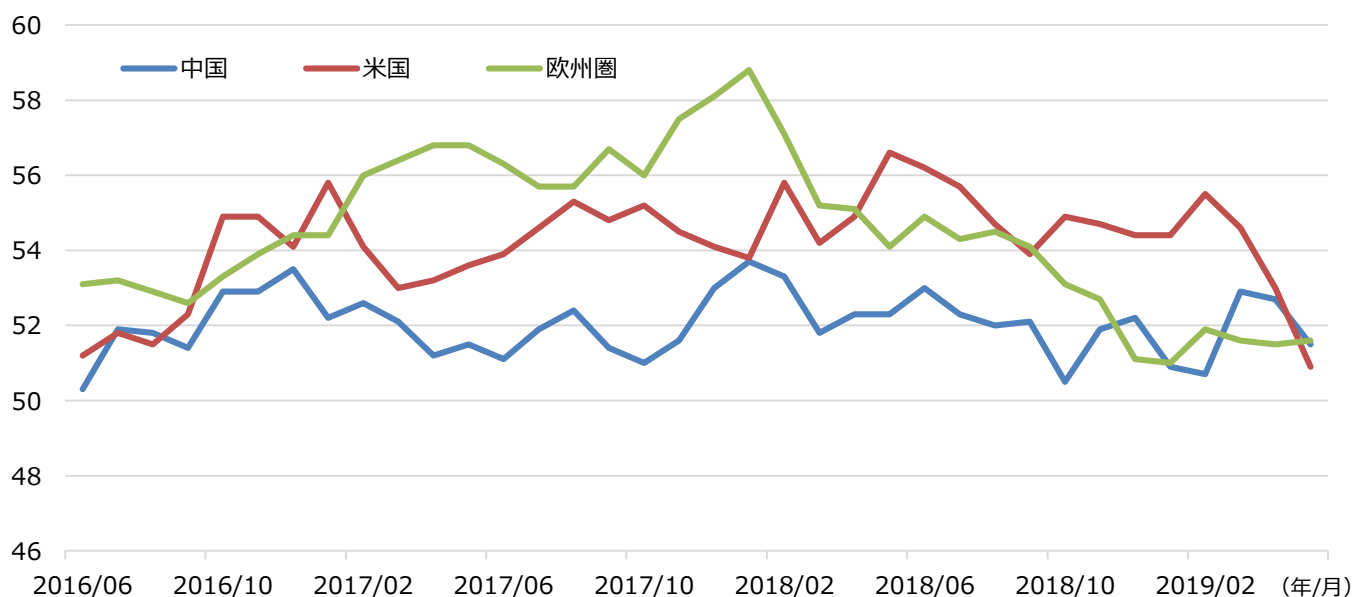
経済の状況を表す時に“景気”という表現が使われることが多々あります。私は「“景気”とは、人の気持ちの景色のこと」と表現しています。“景気”の良し悪しは、新聞やテレビのニュースでは伝えられているものの、そのように他人から聞いて分かるものではなく、この市場(いちば)に生きるものすべての人が、ただいま現在の状況と今後の展開を考えたときの気持ちが、上を向いて進むのか、下を向いて進むのかということによって判明していくことなのです。

マーケットの参加者が自国の景気判断のために、最も重要してきた経済指標は経済成長率の数字でした。“成長”の実感こそが人の気持ちを動かしてきたということです。20世紀後半になると、世界各国の交易がさらに拡大し、それからは世界の投資家が他の国の成長率までを気にしなければならなくなっていったのです。それが今や他の国々の財政や中央銀行の金融政策が、自国の人々の気持ち、すなわち“景気”に大きな影響を及ぼすことは間違いなく、それらを含めて自国の政策判断が必要になっているということをはっきりと理解すべきです。ただし、現実的には“景気”という人の気持ちが相手であるにもかかわらず、需要を動かすための財政政策や、民間を支える意味での社会保障、そして環境を含めての持続的な経済発展の絵を描く人たちの間では、人の気持ちの話が少ないのではないかと思います。世界的に経済価値そのものが変化していく中で、人の気持ちをどれほどまで押し量ることができるのでしょうか。しかしながらその大変な努力こそが今必要とされてるのだと思います。“経済”とは『経世済民』(世の中を治め、民を救うの意)ということを知覚してから、“景気”について自分の依って立つ考え方を定める、ということから始めるべきではないかと考えるのです。

*1マーケットの見方 No.161 日本の景気に対する悲観と楽観 より

柳谷俊郎

中国、米国、欧州圏のPMI*2推移 (2016年6月末～2019年5月末)



*2：景況感を表す指数の一つ。一般に景気の改善と悪化の分岐点となるのが50で、50を超えると景気拡大、50を下回ると景気減速を示す。

出所：マーケット、財新のデータおよび各種報道を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>